

指定校番号	30027	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立神辺中学校	校長	西川 紫	生徒指導主事	丸尾 亮太
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『いじめ防止に向けての取組』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		協調性		多様性に対する適応力	
「コミュニケーション能力」	1	「思いやり・感謝」	2	「自己コントロール」	3

**取組のねらい**『キーワード 傍観者にならない』

- 生徒会本部が主体となり「いじめ」について考える集会を企画し、神辺中学校からいじめをなくす。
- 生徒が「いじめの4層構造」を理解し「傍観者にならない」「傍観者をつくらない」ためにどう行動すればよいかを考える活動を行うことで、仲裁者を育てる。

**取組の具体的内容**『キーワード いじめSTOP集会』

- 生徒会本部役員が、昨年度の成果と課題を踏まえ、主体的に企画を立案した。
- 生徒会本部役員が、「いじめの4層構造」についてパワーポイントを使用して全校生徒に説明し、「傍観者にならない」ことを確認した。
- 集会後、生徒一人一人が「振り返り」と「いじめSTOP宣言」を書いた。

**取組の課題・創意工夫**『キーワード 当事者意識』

- 生徒実態を考慮し、「LINE」を介してのいじめをテーマとした。
- いじめの場面の動画を、全体・加害者・被害者・傍観者の4つの視点から撮影した。
- いじめの解決策として、例を3つ提示した。

**取組の成果（効果）**『キーワード 考える』

- 全校生徒が、生徒会本部役員のプレゼンを集中して聴き、真剣に集会に臨んでいた。
- 事後の振り返りでは、多くの生徒が「傍観者も許されない」等と記入しており、神辺中学校からいじめをなくすという意識が高まった。



**今後の展開**『キーワード 継続』

- 生徒が主体となって企画・立案・実行する「いじめSTOP集会」は、来年度も実施する。
- 生徒会本部の生徒を中心に「あいさつ運動」を継続し、共感的人間関係の向上を図り、いじめの未然防止につなげる。
- 生徒会活動と学級活動をつなぎ、それぞれの個性、考え方や思いを大切にしようとする意識を高める。

**他教科との関わり**『キーワード 継続』

- 1学期には、学級活動の中で、生徒一人一人が「いじめ防止標語」を考えた。標語は全校で集約し、表彰を行った。
- 1月26日（土）の「全国いじめ問題子どもサミット」に参加し、活動の成果を生徒会本部役員の代表が発表した。
- 日々の教科等の授業においても、生徒が自分で課題を見つけ、仲間と話し合いながら解決を図るような活動を行うことで、いじめも含めた学校生活の課題の解決に主体的に関わることができる力を育てていく。





# 神辺中学校生徒会のいじめ防止策は、 傍観者にならないこと。 そして、仲裁者になること。



私達は、このことを考えるために「いじめSTOP集会」を開きました。私達の身近な出来事  
を描いた動画を作成して問題提起をしました。起こっている事実をしっかりと見つめることが  
大切です。場面は、LINEの中。裏のLINEグループでFさんの悪口と仲間はずれの言葉が・・・

**グループLINEにて**

- ・ A 加害者
- ・ B&C Aさんの仲間
- ・ D&E 傍観者
- ・ F 被害者

ライングループ「生徒会」

ライングループ「裏生徒会」

LINEのトークの翌日、約束通りに仲間はずれが始まりました。 4つの視点から、この場面を描いた。

**全体**

**加害者**

**被害者**

**傍観者**

**解決策1**

改善策1

**見ているだけの傍観者から、  
一歩踏み出してみませんか？**

あなたが勇気を出して「傍観者」から一歩進むことで、  
助けられる人がいるかもしれません!!

**解決策3**

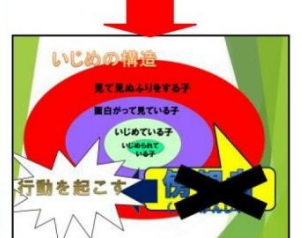
**いじめSTOP集会**

- パワーポイントのスライドを使って「いじめの4層構造」を確認した。「傍観者にならないこと」を訴えた
- 動画で身近ないじめの場面を4つ視点から提示した
- 動画で解決策として3つの例を提示した

**工夫したこと**

- 私たちの身近に起こっているいじめを、全体から見るだけでなく、「加害者からの視点」「被害者からの視点」「傍観者の視点」から見ようとしたこと
- 傍観者にならないための行動例を示したこと

**4層構造は、わかりやすい!**



集会では、福山地区更生保護協会理事長賞を受賞した3年 中井香さんの「自ら行動する勇気」を紹介しました。

「世の中「いじめはしてはいけない」と言う。もちろんいじめは私も反対だ。決してやってはいけないことだと分かっている。では質問。「あなたは人をいじめたことはないですか。」と質問されたらどのように答えるだろうか。そう、多くの人は「はい」と答えるだろう。では質問の仕方を変えてみよう。「あなたはいじめられている人がいたら必ず助けることはできますか。」「はい」と答えられる人は少ないのではないだろうか。さらにもう一度聞く。「あなたは人をいじめたことがないと言いきれますか。」いじめを実行している中心のグループでなくとも「見て見ぬふりをする。」「自分がいじめられたくないから知らないふり。」これも立派ないじめの一つだ。「いじめ」は立派な犯罪だ。日常で何気なく言っている悪口は侮辱罪となり、ふざけて蹴ったり叩いたりしたことも暴行罪となり、暴力をふるった結果、相手がケガをすれば傷害罪となる。社会ではこれだけ犯罪となるのが「子どもだから」「学校だから」という理由で許されるわけがない。どうか、いじめに気づいてほしい。そして手を差し伸べることのできるヒーローに私はなりたい。

# BULLYING STOPS HERE!